



Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

社会福祉法人 恩賜財団 済生会

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビルヂング21階

TEL : 03-3454-3311 (代)

URL : <http://www.saiseikai.or.jp>



創薬の 架け橋へ

済生会 共同治験ネットワーク



21世紀の
保健・医療・福祉を支える、
質の高い治験を
めざして

社会福祉法人 恩賜財団 済生会は、明治天皇の済生勅語により設立された1911年から2011年で100周年を迎え、天皇皇后両陛下ご臨席のもと記念式典を挙行了しました。

少子高齢化の進展や著しく変化する政治・経済・社会情勢の中、済生会は創立の精神を忘れず、100年の歴史と伝統で培った保健・医療・福祉のノウハウをもって、すべての「いのち」を守る、日本最大の社会福祉法人として地域の発展に寄与しています。

「生活困窮者支援の積極的推進」、「最新医療による地域貢献」、「医療と福祉の切れ目のないサービス提供」を活動目標としていますが、これらを支える医療の質を向上させるためには、治験や臨床研究に積極的に取り組み、最新の医療を取り入れていくことが大変重要であると考えています。

また近年では、治験の実施体制に対して、効率性や症例集積性の観点からネットワーク化が求められており、本会としても、全国に施設を展開する強みを生かして、79の病院を繋ぎ、共同治験の体制を整備しました。

2012年9月以降、毎月1回法人本部にて中央治験審査委員会を開催し、全国の病院から寄せられる案件を一括して審議しており、これまでに多くの治験を受託してきました。

今後も本会使命に沿った事業を展開するとともに、一日も早く、病める患者さんが求める新薬をお届けできるよう努めていく所存です。

社会福祉法人 済生会 理事長

炭谷 茂

Sumitani Shigeru



INDEX

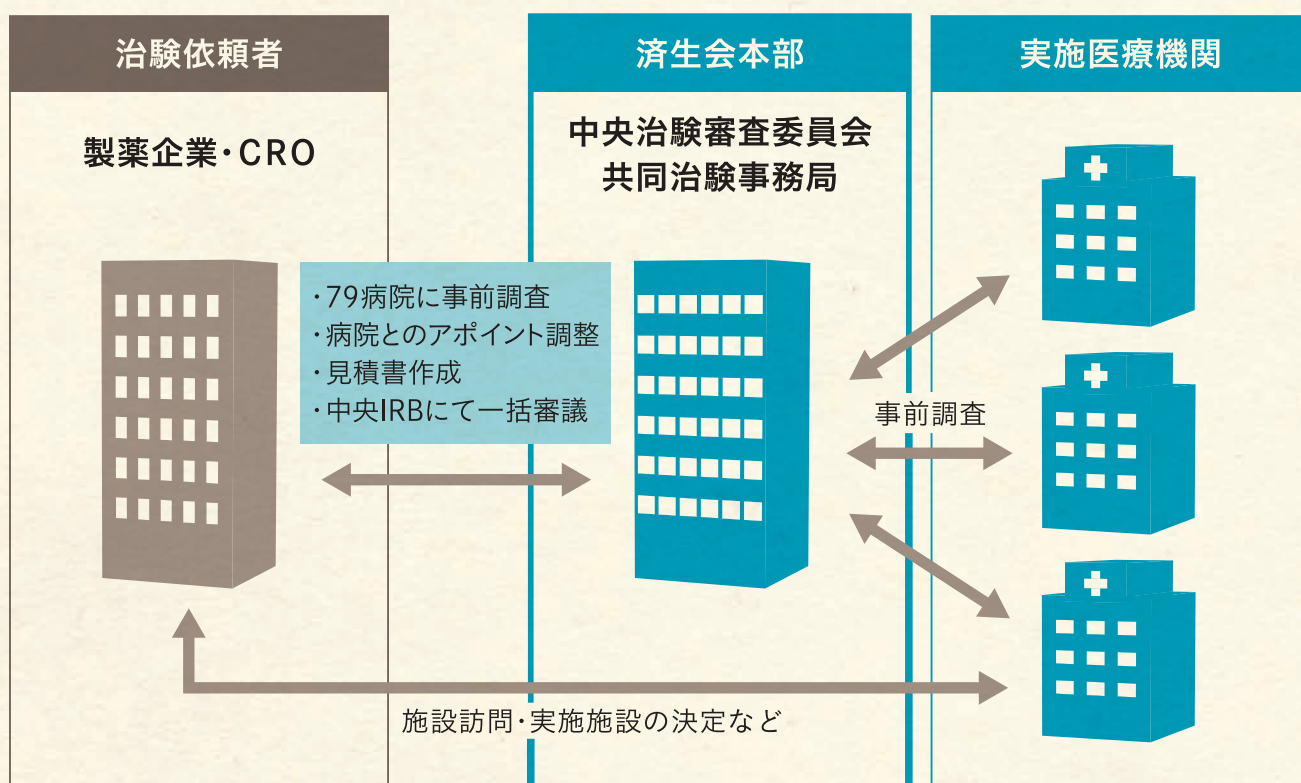
21世紀の保健・医療・福祉を支える、質の高い治験をめざして	炭谷 茂	1
済生会共同治験ネットワークとは		3
済生会共同治験の構造		4
中央治験審査委員会の概要		5
済生会共同治験事務局の体制		5
済生会共同治験の流れ		6
済生会共同治験の経費算出方法		7
SPECIAL INTERVIEW 均一性を保つ治験をめざす	豊島 聰	8
スケールメリットを生かした済生会の共同治験		9
SPECIAL INTERVIEW 済生会共同治験への協力体制を構築	宮岡弘明	11
全国に広がる済生会の医療施設		12
主な治験実施病院		14
宇都宮病院 14／ 中央病院 15／ 横浜市南部病院 16／ 吹田病院 17／ 松山病院 18／ 福岡総合病院 19／ 北上済生会病院 20／ 新潟第二病院 20／ 水戸済生会総合病院 21／ 前橋病院 21／ 習志野病院 22／ 川口総合病院 22／ 横浜市東部病院 23／ 福井県済生会病院 23／ 和歌山病院 24／ 千里病院 24／ 中津病院 25／ 野江病院 25／ 岡山済生会総合病院 26／ 広島病院 26／ 今治病院 27／ 二日市病院 27／ 長崎病院 28／ 熊本病院 28		
済生会は日本最大の社会福祉法人 地域の医療・保健・福祉を担う 年表		巻末

済生会共同治験 ネットワークとは

済生会全体の治験システムをネットワーク化し、大規模で迅速な治験を実施するために作られたのが済生会共同治験ネットワークです。済生会本部が中心となり、79病院と19診療所を結んでいます。ネットワーク化することで、治験実施医師の責任が明確になり、中央治験審査委員会によって手続きを簡略化することができます。また、円滑に治験を実施するために、済生会共同治験事務局が窓口を一手に引き受け、情報共有を進めています。

済生会共同治験の構造

済生会共同治験の特長は、済生会本部に設置された、中央治験審査委員会と共同治験事務局です。共同治験事務局が窓口となることで、ネットワーク化された済生会グループのすべての病院に、迅速に事前調査をすることができます。そして、治験実施施設の選定が終わった際には、中央治験審査委員会で一括審議することで、各病院で審議を行う手間と時間と費用を節約することが可能です。



さまざまな対応を共同治験事務局が行います。

治験依頼者への対応

- ①中央治験審査委員会の設置
- ②実施医療機関の紹介
- ③治験進捗状況の管理と報告
- ④説明の実施
- ⑤契約関連の窓口

医療機関への対応

- ①治験依頼の説明
- ②実施医療機関への教育・研修の実施
- ③治験専門職による治験業務支援
- ④治験情報の提供と周知活動
- ⑤中央治験審査委員会による審査

中央治験審査委員会の概要

外部からも多様な専門家を委員に招き、倫理、臨床、薬理、看護、薬事、公衆衛生等のさまざまな視点から毎月審議を行っています。



【IRBの概要】

種 類：GCP 省令第 27 条に規定する実施医療機関の長が設置した治験審査委員会

設置者：東京都港区三田 1-4-17 済生会中央病院 院長
大阪府吹田市川園町 1-2 済生会吹田病院 院長
福岡県福岡市中央区天神 1-3-46 済生会福岡総合病院 院長
契約書や覚書等を締結する場合の契約者は共同設置者を代表して済生会吹田病院の院長となります。

名 称：社会福祉法人 恩賜財団 済生会 中央治験審査委員会
(Social Welfare Organization Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc. Central Institutional Review Board)

所在地：東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル 21 階
(Mita Kokusai Bldg. 21F, 1-4-28 Mita, Minato-ku, Tokyo 108-0073 JAPAN)

開催日：原則として毎月第 1 水曜日(ホームページにて公開)

済生会共同治験事務局の体制

済生会共同治験事務局は、植松和子事務局長を筆頭に、大山彰裕治験担当専門員のほか、スタッフ4人の計6人で構成されています。さらに、SMOと契約し人員を補強することで、依頼があった際に迅速に対応できる体制が整備されています。共同治験事務局では、窓口を一本化し、すべての病院と即座に情報を共有できるだけでなく、治験進捗状況の把握と支援、各種説明会や実施医療機関への教育、研修を行っています。



済生会共同治験の流れ

済生会共同治験事務局にご依頼いただければ、依頼から契約締結までの医療機関との連絡はすべて済生会共同治験事務局が行います。また、済生会グループの全医療機関と連携しているので、一度に79病院への調査はもちろん、19診療所への調査も必要に応じ可能です。

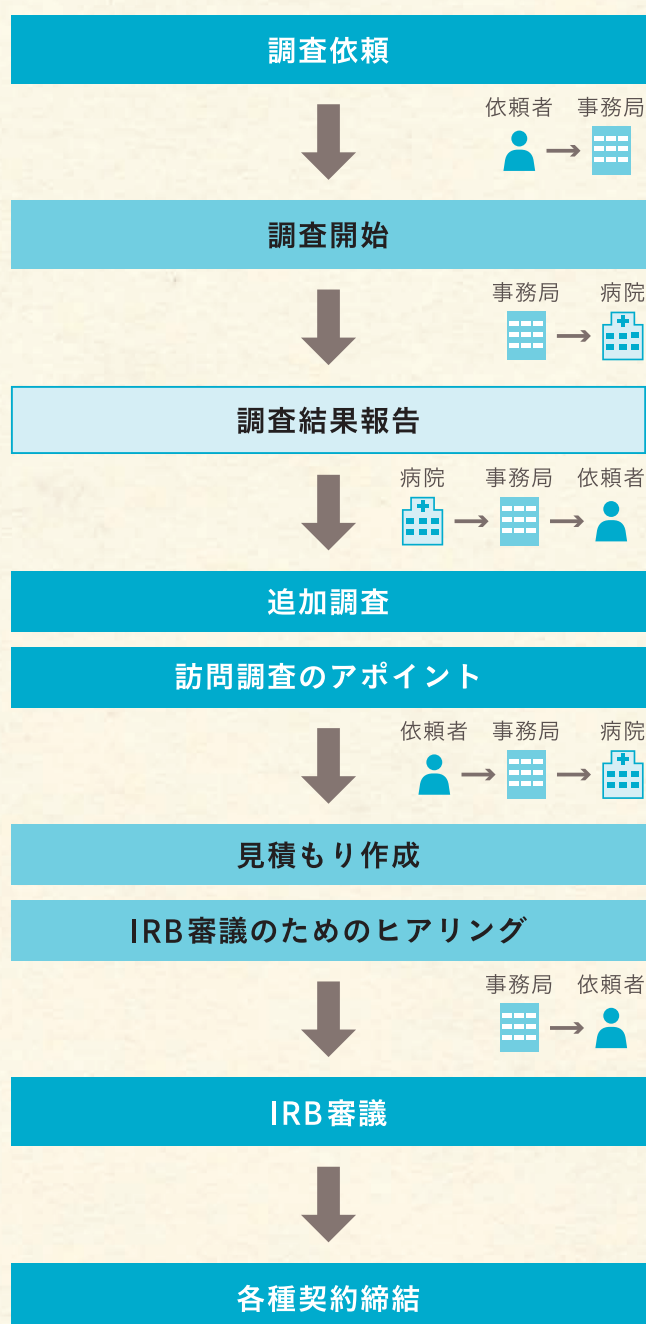
済生会共同治験事務局が依頼を受けると、まず治験実施が可能かどうか、病院長、治験担当者を対象とした調査を行います。また、済生会共同治験の活動に積極的に参加すると表明した治験協力医師の登録制度があり、これらの医師にもダイレクトで調査を行います。2週間程度で調査結果を取りまとめ、その結果を依頼者へ提供し、必要であれば追加調査をします。さらに、訪問調査の際にはアポイントメント調整や訪問前の施設調査票の作成支援を治験事務局が実施します。その後、共同治験事務局が見積もりを作成し、IRB審議へと進みます。なお、IRB審議当日の説明は共同治験事務局員が行うので、事前にプロトコル等の内容を説明していただく必要があります。IRB承認後、各種契約の締結となります。症例追加については、その都度見積書を作成しますので、事務局までお問合せください。

事前調査可能診療科

- 消化器内科
- 外科
- 感染症科
- 内科
- 消化器外科
- 精神科
- 循環器内科
- 放射線科
- 形成外科
- 呼吸器内科
- 産科
- 皮膚科
- 神経内科
- 腎臓内科
- 肛門科
- 泌尿器科
- 耳鼻咽喉科
- リウマチ科
- 脳神経外科
- 血液内科
- 呼吸器外科
- 麻酔科
- 婦人科
- 内分泌代謝内科
- 透析科
- 整形外科
- 眼科
- 心臓血管外科
- 気管食道科
- 小児科
- 乳腺外科

治験協力
医師数
153名

ワークフロー



済生会共同治験の経費算出方法

済生会共同治験にご依頼いただければ、済生会の全病院に同時にアクセスできるというメリットだけでなく、費用の面でもメリットがあります。複数の病院が選定された場合は、1病院当たりのIRB審査費用が減額されます。実施施設が5病院以上の場合は、4病院分の審査費用で治験実施が可能です。

臨床試験にかかる経費（医療機関から請求）			
医療機関に関する経費	臨床試験研究経費（＝ A ）		ポイント × 6,000円 × 症例数
	治験施設管理経費		A × 50%
	旅費		所定の旅費規定
SMO 契約状況により変動する経費	治験協力者人件費	院内CRCを利用する場合	A × 100% + A の1% × Visit回数
		SMOを利用する場合	SMOとの契約金額（SMOと直接交渉）
	治験事務局人件費	院内スタッフを利用する場合	A × 30%
		SMOを利用する場合	A × 10%（病院経費）及び SMOとの契約金額
被験者経費	被験者負担軽減費		1万円 × 来院回数 × 症例数

IRB 審査に係る経費（共同治験事務局から請求）		
本部経費		A × 10%
審査費用	初回時	20万円 + 10万円 × 病院数（上限4病院：60万円）
	継続時	10万円 + B × 病院数（上限4病院）
	迅速	1案件 × 5万円
IRB 事務局経費		審査費用 × 10%

B 継続審査の2病院目以降についてはプロトコル上の治験期間に応じ下記金額

- 1年未満…5万円
- 2年未満…4万円
- 2年以上…3万円



社会福祉法人 済生会本部 **共同治験事務局**

TEL:03-3454-3311
FAX:03-3453-5576

E-Mail: kyodochiken@saiseikai.or.jp
URL: http://www.nadesikotiken.com/

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28(三田国際ビルディング21階)



治験事務局のある
三田国際ビルディング



最新情報はHPをご覧ください

なでしこ治験



均一性を保つ治験をめざす

ネットワークを生かした
質の高い治験を展開

中央治験審査委員会

豊島 聡 委員長

TOYOSHIMA SATOSHI

かつてドラッグラグによって日本の治験は停滞していました。ドラッグラグの大きな原因は、日本国内の承認審査に時間と費用がかかることでした。それに伴い、製薬企業が日本での開発に二の足を踏むという問題も起こっていました。こうした課題を克服するために、厚生労働省が中心になって動き、治験の承認審査は欧米に劣らないスピードになっています。

現在の日本の治験の弱点は、ネットワーク化されていないことです。国内でネットワーク化がうまくいっているのは、国立病院機構の治験です。一つの市中医療機関で多くの症例を集めることはほとんどありません。そうすると、治験の質を均一化できないという問題が起こります。

日本と比べ韓国では治験が進んでいます。韓国には3,000床を超えるような財閥系の病院があり、そこで治験が行われます。一つの病院で100症例を集めることも可能です。日本の場合は、一つの病院から6症例くらいです。また、韓国のように、一

の病院から多くの症例が集まれば、治験の均一性を保つことができます。

それでは 済生会ではどうしたらよいか。全国規模のネットワークを武器に、共同で治験を実施することで、同等の結果が得られます。そうした観点から考えれば、済生会の共同治験はスケールメリットを生かすことで国立病院機構で行われる治験とは一味違ったエビデンスを確立する可能性が期待できます。

PROFILE

とよしま・さとし

1980年東京大学薬学部卒業。東京大学薬学部助教授、星薬科大学薬学部教授を経て、国立医薬品食品衛生研究所医薬品医療機器審査センター長を務める。2004年、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の審査部門理事に就任。現在は日本薬剤師研修センター理事長、武蔵野大学薬学部特任教授を務める。

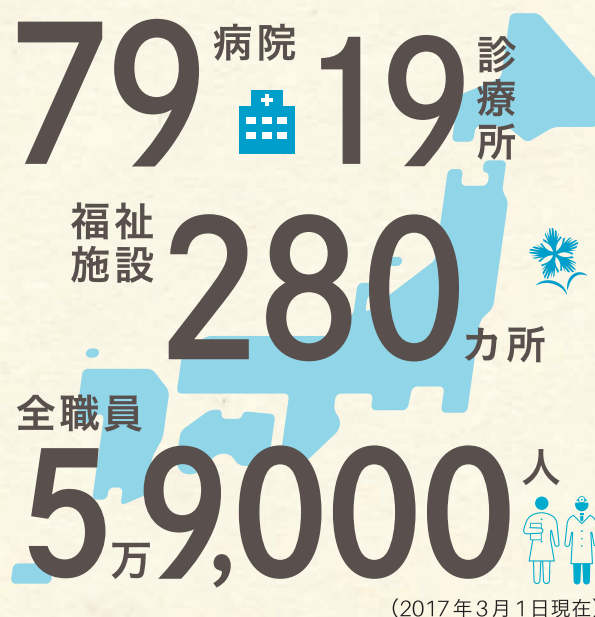


スケールメリットを生かした 済生会の共同治験



全国各地の 医療施設で 治験実施が可能

済生会グループ全体では40都道府県に79の病院、19の診療所、280の福祉施設——これらが全体で治験に取り組めば、大規模な治験が可能になります。実施地域によって治験の結果に差が出る可能性もあるので、日本各地の人に治験を行うことで、治験の質を均一化することができます。患者第一を掲げる済生会の一員として自覚を持った約5万9,000人の職員による協力体制が構築されており、治験を受ける患者さんのフォローも手厚く行います。



2,000万人超の 年間利用者数

1年間に済生会の医療施設を利用する患者さんは約1,700万人で、済生会グループの運営する施設をすべて含めると、利用者数は2,000万人を超えます。済生会の病院は市中病院で、糖尿病、脂質異常症、動脈硬化などの慢性病を抱えている患者さんも多くいます。また、先生と患者さんの“距離”が近いことも特長です。今までに実施した治験でも、「先生が勧めるならやってみます」という患者さんも多くいます。済生会全体の同意取得率は100%、実施率は80%（2015年度のデータ）となっています。

施設数と年間延べ利用者数

医療施設 (99カ所)	1,699万人 (入院664万人 外来1,035万人)
無料低額診療事業	202万人
生活困窮者支援事業	15万人
公衆衛生・保健予防活動	91万人
瀬戸内海巡回診療	9,000人
介護老人保健施設 (30カ所)	100万人
社会福祉施設 (156カ所) 同事業 (258カ所)	計355万人
公益事業施設 (197カ所)	75万人

(2015年度)



離島・へき地での診療も

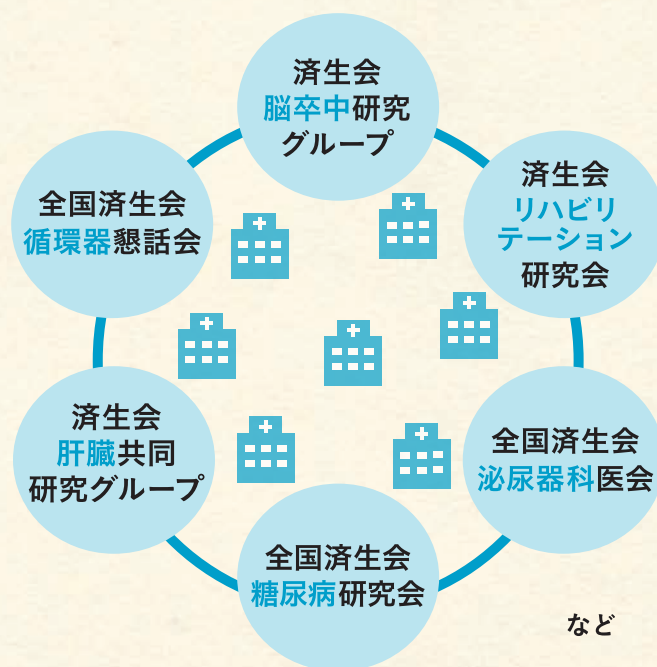
済生会では、生活困窮者の支援活動を積極的に行っており、ホームレス、DV被害者、刑務所出所者などへのさまざまなサポートも展開しています。岡山、広島、愛媛、香川の4県支部が運航する済生丸は日本唯一の診療船で、瀬戸内海63の離島を巡って主に高齢者の健診に当たっています。さらに、他の地域でも定期的にへき地での診療にも当たっています。患者さんの生活環境もさまざま、そういった患者さんへの治験も対応可能です。

写真上：済生丸による宇和海(瀬戸内海)合同健診。松山病院・今治病院・西条病院から医師、研修医、看護師、検査技師、事務員が参加
写真下：東京・中央病院、大阪・中津病院から大分・日田病院へ派遣。山間地の集会所で地域医療を実施



病院を越えた診療科間のつながりも強い

病院同士のつながりだけでなく、診療科同士のつながりが強いことも済生会の特長です。済生会脳卒中研究グループでは9,663症例を集め、症例解析をしています。また、済生会肝臓共同研究グループでは、NASH肝がんの増加を早期から予測し、肝生検のデータを蓄積し続けています。全国済生会循環器懇話会は、済生会の中でも最も古い横断的研究組織で、1988年に誕生し、29年の歴史を持っています(2016年現在)。2016年に発足した済生会リハビリテーション研究会では、今後ますます需要が高まっていくリハビリの研究を積極的に推進していく予定です。また、済生会は永年にわたり共同研究への助成を積極的に行っており、済生会医学・福祉共同研究として数多くの論文を発表しています。



済生会共同治験への
協力体制を構築

症例多い市中病院で
スケールメリットも
期待できる



共同治験推進専門小委員会

宮岡弘明委員長

〈愛媛〉松山病院 院長

MIYAOKA HIROAKI

済生会 グループの組織の中に「共同治験推進専門小委員会」（以下委員会）があります。

「治験」を行うことにより、それぞれの病院がより活性化することが期待できるので、委員会は各病院が治験や共同治験を積極的に推進していけるような体制作りをめざしています。

全国の 済生会病院には積極的に治験を行っている病院、これから治験を行おうとしている病院があります。

積極的に治験を行っている病院にはよりたくさんの治験を行ってもらえるように連携を進め、これから治験を行おうとしている病院にはシステム作りなどでサポートできればと思っています。

「**治験**」はそれにかかわる人を Happy にします。患者さんは新しい治療を受けることができ、主治医は最先端の治療を経験できます。病院にとっては外部資金を獲得することができます。以前に比べると治験のハードルが高くなっていますが、「済生会共同治験」を行うことで、より多岐にわたる治験の依頼がくる可能性が

あります。また「済生会」は大きい組織で、全国の済生会には素晴らしい人材がたくさんいます。共同治験を通じて素晴らしい人材同士が交流・切磋琢磨し、より成長してもらえればと思っています。

共同治験 事務局や委員会は全国の済生会病院がより治験を行いやすくなるようにサポートしたいと思っています。それぞれの病院の特色と済生会のスケールメリットを生かして、「治験」をより積極的に行える体制作りをめざしています。

PROFILE

みやおか・ひろあき

1981年鹿児島大学医学部卒業。同年4月より愛媛大学医学部付属病院に勤務。その後、市立八幡浜総合病院、国立療養所愛媛病院内科医長、愛媛大学医学部助手を経て、1992年済生会松山病院内科医長に就任。同院の内科部長、副院長を務め、2014年4月院長に就任し現在に至る。



全国に広がる 済生会の医療施設

済生会共同治験の実施に向けて、全国40都道府県の79病院、
19診療所がネットワークを確立しています。

- 岩泉病院付属有芸診療所
- 岩泉町安家診療所
- 岩泉町大川診療所
- 岩泉町釜津田診療所
- 岩泉町小本診療所
- 陸前高田診療所
- 宮城県済生会
こどもクリニック
- 済生会春日診療所
- 川俣町国民健康保険
山木屋診療所
- 波崎診療所
- 内牧クリニック
- 渋谷診療所
- 済生会新潟内科診療所
- 岡山済生会奉還町診療所
- 岡山済生会県庁内診療所
- 岡山済生会国体町診療所
- 岡山済生会昭和町診療所
- 高浜診療所
- 小田診療所

- 40 福岡県済生会(5)**
- 福岡総合病院 →P19
 - 飯塚嘉穂病院
 - 八幡総合病院
 - 大牟田病院
 - 二日市病院 →P27

- 41 佐賀県済生会(1)**
- 唐津病院

- 42 大分県済生会(1)**
- 日田病院

- 43 長崎県済生会(1)**
- 長崎病院 →P28

- 44 熊本県済生会(2)**
- 熊本病院 →P28
 - みすみ病院

- 45 宮崎県済生会(1)**
- 日向病院

- 46 鹿児島県済生会(2)**
- 鹿児島病院
 - 川内病院

- 34 広島県済生会(2)**
- 呉病院
 - 広島病院 →P26

- 35 山口県済生会(4)**
- 山口総合病院
 - 湯田温泉病院
 - 下関総合病院
 - 下関市立豊浦病院

- 36 香川県済生会(1)**
- 香川県済生会病院

- 38 愛媛県済生会(4)**
- 松山病院 →P18
 - 今治病院 →P27
 - 今治第二病院
 - 西条病院

- 24 滋賀県済生会(1)**
- 滋賀県病院

- 26 京都府済生会(1)**
- 京都府病院

- 27 奈良県済生会(3)**
- 奈良病院
 - 中和病院
 - 御所病院

- 28 和歌山県済生会(2)**
- 和歌山病院 →P24
 - 有田病院

- 30 兵庫県済生会(1)**
- 兵庫県病院

- 31 鳥取県済生会(1)**
- 境港総合病院

- 32 岡山県済生会(2)**
- 岡山済生会総合病院 →P26
 - 吉備病院

- 33 島根県済生会(1)**
- 江津総合病院

- 29 大阪府済生会(8)**
- 中津病院 →P25
 - 新泉南病院
 - 吹田病院 →P17
 - 千里病院 →P24
 - 野江病院 →P25
 - 泉尾病院
 - 富田林病院
 - 茨木病院



つながる 全国 79 病院

(2017年3月1日現在)

主な治験実施病院



床数	644床	治験事務局 担当者	2人(SMO担当者含む)
1日平均 外来患者数	1,259人	CRC	2人(SMO担当者含む)
SMO 委託状況	フルサポート (CRC派遣+事務局)		

〈栃木〉

宇都宮病院

〒321-0974 栃木県宇都宮市竹林町911-1

●**小林義美 薬剤部部长** (写真左)：当院の場合、IRB^{*1}は済生会共同治験の共同IRBにすべて任せています。体制としては、SMO^{*2}にフルサポートしてもらい、院内で必要な事務手続きのみ職員2人で対応しています。当院で対応可能な治験領域は、泌尿器科、消化器内科、神経内科、小児科、呼吸器外科、糖尿病・内分泌内科です。臨床研究に関しては、ほぼすべての科で実施しています。臨床研究でもSMOがサポートする場面が増え、サポートしてもらえると、どれだけ楽かということがわかってもらえます。臨床研究を足がかりに、治験にも取り組んでいきたいと思っています。

●**田原利行 消化器内科主任診療科長** (写真左から2人目)：治験の対象になる患者さんは、当院で長く診ている方が多く、内容にもよりますが、多くの場合快く同意してもらえます。CRCが驚くほど同意取得率が高いのが特長です。患者さんにと

ってのメリットは、新薬を試せたり、通常しないような検査を受けたり、体の状態を細かく診てもらえることです。それに加え、入念に相談ができることも大きなメリットでしょう。治験に参加している患者さんはCRCを通して、体調の変化などをすぐにチェックできるシステムになっています。ちょっとした相談であればCRCにも話を聞いてもらえます。

●**戸邊豊総 泌尿器科主任診療科長**：私の専門分野である腎がん、膀胱がんを中心に、できるだけ積極的に治験に取り組んでいこうと思っています。当院は一般病院ですが、栃木県において、当院ほど治験に積極的な病院はありません。アカデミックな研究主体の施設ではないのですが、大学病院などに負けないくらいに治験に取り組んでいるという自負があります。また、当院のように症例数が多い病院では、治験参加を勧めたい患者さんも集まりやすい、という利点もあると考えています。



戸邊豊総 主任診療科長

* 1 IRB：治験審査委員会のこと。治験実施機関が治験を実施する際に、厚生労働省に届け出た治験デザインを審査する組織。

* 2 SMO：治験施設支援機関のこと。治験実施施設と契約し、GCPに基づき適正で円滑な治験が実施できるように、医療機関の治験業務を支援する組織。



〈東京〉

中央病院

〒108-0073 東京都港区三田1-4-17

床数	535床(内訳：一般535床)		
1日平均 外来患者数	1,193人	治験事務局 担当者	2人
SMO 委託状況	CRC派遣のみ	CRC	4人(SMO担当者含む)

●若林 薫CRC (写真前列右)：2015年に、臨床研究センターが設置され、専任の職員3人（CRC2人、事務職1人）が臨床研究と治験に携わっています。これまでに参加した治験の対象領域は、糖尿病内科、神経内科、消化器内科、循環器科、整形外科、血液・感染症内科です。市中病院として、一般の診療が最優先されるべきであり、日常臨床の中に治験をうまくミックスさせていくことが大切だと思っています。近年、腫瘍内科ができ、抗がん剤を使用する診療体制も整備されつつあります。また、患者さんのスクリーニン

グについては医療情報管理分析室で行っています。

●高橋寿由樹循環器科部長 (写真前列中央)：治験が始まると、日常診療に加えて、治験の業務が増えますが、CRCが医師の負担となる作業が必要最低限になるように工夫してくれます。このような支援体制により、当院は治験や臨床研究に積極的に参加していくことができます。また、院内では臨床研究発表会を定期的に行い、優秀な演題は病院から表彰されます。

●塚田信廣 副院長 (写真前列左)：当院は東京都から地域医療支援病院に指定されています。地域に根ざした病院ということが病院の基本方針の第一の柱であり、伝統でもあります。治験においても、当院と病診連携を結んでいる約500の診療所やクリニックと情報を共有し、患者さんを紹介していただいています。また、高齢化に伴い、認知症をベースに持ち、急性疾患を合併した患者さんの受け入れが増加しています。2015年に港区唯一の認知症疾患医療センターに都から指定を受けており、院内外の多職種部門と協働して、都会型の地域包括ケアの一端を担い、地域に貢献していく所存です。認知症治療薬の治験にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。



床数	500床(内訳：高度急性期454床、急性期46床)		
1日平均 外来患者数	1,147人 (2017年1月実績)	治験事務局 担当者	6人
SMO 委託状況	一部あり	CRC	4人

〈神奈川〉

横浜市南部病院

〒234-8503 神奈川県横浜市港南区港南台3-2-10

●安岡晋吾 CRC (写真右)：当院は、2001年に治験ワーキンググループを立ち上げ、翌年にIRBを設立しました。2003年に初めての治験を受託し、今年度は15件の治験を実施しています。そのうち3件がなでしこ治験です。

現在の体制は、院内CRC4人と事務職1人が専任であり、治験事務局長は薬剤部長が兼任しています。

治験患者さんの情報は電子カルテを利用し、治験中であることや緊急時の連絡先等を表示することで関連スタッフとの情報共有をはかっています。また、当院の特徴としてCRCが病院職員

であるため、医師や関連部署との距離が近く、治験を円滑に実施することができていると思います。候補患者さんの来院日には適格性の確認を忘れずに行ってもらうために朝から診察室に行き、医師や看護師に伝える場合もあります。

治験実績が多い診療科は主に腎臓高血圧内科、呼吸器内科、

循環器内科ですが、院内の治験の認知度をより上げて治験実施診療科を拡大していくことを目指しています。

●西濱雅充 副院長(IRB委員長)：IRBの審議を担当している立場としては、副作用や有害事象などをチェックし被験者さんの安全を最も重視しています。また、検体の管理や情報管理についてもしっかりと審査しています。

副院長の立場で考えると、治験は一つの収益事業になっています。また、研究費が実施診療科に還元されるので、治験を担当する医師のモチベーションにもつながっていると思います。医薬品が開発されれば患者さんへの貢献にもなります。

●猿渡 力副院長(治験責任医師)：治験で一番苦労するのは患者のピックアップですが、当院のCRCが綿密にスクリーニングをしてくれます。医師の立場としては患者さんの同意取得に気がつかれます。同意取得に際しては丁寧な説明を心がけています。

病院経営の視点からは、CRCを充実させ、治験を増やす方向を考えています。さらに、今後は病診連携を活発化することで、紹介していただく症例を増やし、治験の充実につなげることができればいいと思っています。



西濱雅充副院長



猿渡 力副院長



床数	500床(内訳：急性期500床)		
1日平均 外来患者数	1,015人	治験事務局 担当者	3人(SMO担当者含む)
SMO 委託状況	フルサポート (CRC派遣+事務局)	CRC	5人(SMO担当者含む)

〈大阪〉 吹田病院

〒564-0013 大阪府吹田市川園町1-2

●中林真紀薬剤部部長(写真右)：当院の強みは、肝臓をはじめとする消化器関連の領域と呼吸器内科、婦人科、整形外科、リウマチです。CRCのフルサポートでデータ管理などを行い、薬剤管理に関しては、薬剤部で行っています。管理体制については、PMDA^{*1}や製薬会社の監査や指導を受けながら改善をしてきたので、現在では治験を行う環境は十分に整っています。

私は薬剤師として、当院で取り組んだ治験薬が実際に発売されると、やりがいを感じます。また、治験に協力してくれた患者さんの想いを無駄にしないように、薬の管理を徹底しなければいけない、と考えています。

●長 澄人副院長：外部評価の一環として、治験に取り組んでいくべきだと思っています。

治験を実施する上で一番苦労するのは、適格症例を見つける

ことです。この点は、CRCが条件を絞り込んでスクリーニングをしてくれるので、医師に負担がかかることはありません。同意取得に関しては、信頼関係が重要です。私の場合は患者さんの個性を見極めて、治験に対して前向きに取り組んでくれそうな患者さんに声をかけるようにしています。

私は、大学病院で治験や臨床試験に携わっていましたが、そのころと比べると、手がかからなくなっています。現在は、優秀なCRCのおかげで医師の手間は必要最小限です。

●島 俊英副院長：治験はシステムチックなもので、一度流れに乗ってしまえば、煩わしさを感じることはほとんどありません。書類に目を通し、サインをする必要はありますが、CRCがスケジュールや書類の管理などをしてくれているので安心です。

病院が新しい治療の開発に貢献することは大事だと思います。また、治験や臨床試験の実施施設であることは、その病院のステータスでもあります。先進的な医療に積極的に取り組んでいくことで病院のクオリティーも向上していきます。



長 澄人副院長



島 俊英副院長

*1 PMDA：独立行政法人医薬品医療機器総合機構のこと。Pharmaceuticals and Medical Devices Agencyの頭文字をとって、PMDAと呼ばれている。医薬品や医療機器などの品質、有効性および安全性について、治験前から承認までを一貫した体制で指導・審査。市販後における安全性に関する情報の収集、分析、提供も行う。



〈愛媛〉

松山病院

〒791-8026 愛媛県松山市山西町880-2

床数	199床 (内訳：急性期180床、高度急性期12床、その他7床)		
1日平均 外来患者数	595人 (2016年12月)	治験事務局 担当者	1人
SMO 委託状況	CRC派遣のみ	CRC	9人(SMO担当者含む)

●**清水良治 治験管理室長** (写真前列右)：当院で治験が多いのは糖尿病を含む内科、循環器内科、神経内科、脳神経外科などで、平均すると約15件が常に進行しています。最近はパーキンソン病、認知症など神経内科領域の疾患を対象にした治験が増えています。

当院のように200床規模の病院でも、これだけの治験を実施できるのは、必要十分なマンパワーとシステムが整っているからです。例えば、脳神経外科には5人の医師が在籍しており、全員が治験に関わっています。治験管理室ではCRCが電子カルテから患者さんを手際よくスクリーニング。また、すべてのデータをスタッフが目を代えて厳重にチェック。一貫して治験を支えることで、医師は診療に集中できます。治験実施環境を整えることで質の高いデータ

が得られると考えています。

こうして培ったノウハウを済生会グループで共有することで大掛かりな治験に取り組むことも可能です。

●**渡辺浩毅 副院長** (写真前列中央)：患者さんを厳選することで精度の高いデータが得られ、有害事象に目を光らせることで安全性も確保され、必然的に治験の質は向上します。その結果、済生会の治験の評価が上がっていきます。済生会グループの共同治験から将来、新しい治療法が生まれる可能性を持っています。今後は治験で確立したノウハウを市販後調査にも生かしていく考えです。

●**楠 勝介 副院長**：治験で使う薬剤は基本的にフェーズⅢの段階に達していれば効果があるとされています。患者さんの状態を丁寧に観察し、検査値に少しでも異常が現れたらすぐに対応します。今後は機会があれば救急領域の治験も受け入れていきたいと考えています。製薬企業には良い薬を開発していただくことを期待しています。



楠 勝介 副院長



福岡総合病院

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1-3-46

床数	380床(内訳：急性期380床)		
1日平均 外来患者数	365人	治験事務局 担当者	3人(専任1人：CRC専任と同一人物・兼任2人)
SMO 委託状況	フルサポート (CRC派遣+事務局)	CRC	6人(専任1人・兼任2人、SMO3人)

●**山田正紀 CRC**：当院の得意分野は消化器内科、神経内科、循環器内科、外科などですが、近年では抗がん剤の治験の受託も増えています。急性期疾患が多いですが、糖尿病や婦人科疾患、感染症などを対象とした治験を受ける体制も整って

おり、医師・CRC・事務局・メディカルスタッフが協力して対応しています。特に検査部では、治験用の窓口が設置されていて、担当の検査技師が配置されています。CRCが薬剤師なので治験薬管理もスムーズです。製薬企業からは、フットワークが軽いとの評価をいただいています。



山田正紀 CRC

●**落合利彰 副院長**：治験は、あくまで診療の一環なので、診療の流れの中でやっていくことが大切だと思っています。新しい薬が世に出るために協力したいという思いを持っているドクターは多いです。まだ名前もない薬に携わることができるのは、興味深いです。特に、若い医師にその特徴が顕著かもしれません。



落合利彰 副院長

私の専門である消化器内科では、治験実施前に患者さんの状態をデータベース化しています。薬剤部や診療情報室などでカルテスクリーニングも行いますが、事前にデータベース化しておくことで、効率よく対象患者を見つけることが可能です。

患者さんの同意取得については、既存の治療に上乗せするような治験は、比較的同意は取りやすいのですが、プラセボを使う治験では、同意取得率は下がります。既存の治療では効果がみられなくなっている患者さんでは、新規の治療を受けるチャンスになるので、積極的に勧めます。

副作用対策について、当院は救急病院であり、十分に対応できます。このようなフォロー体制が患者さんの安心につながっていると思います。

〈岩手〉

北上済生会病院

〒024-8506 岩手県北上市花園町1-6-8



床数	303床(内訳：一般病床255床、感染症病床4床、回復リハビリ病床44床)		
1日平均 外来患者数	354人	治験事務局 担当者	1人(SMO担当者含む)
SMO 委託状況	フルサポート (CRC派遣+事務局)	CRC	1人(SMO担当者含む)

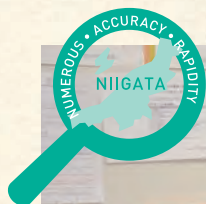
当院の治験事務局は、薬剤科が担当しますが、SMOへのフルサポートのうえ、院内治験審査委員会に諮ります。

神経内科、脳神経外科の認知症関連治療薬、外科と呼吸器科のがん治療薬、循環器内科の血圧、循環改善薬、心疾患治療薬、皮膚科と小児科の抗アレルギー薬、乾癬治療薬など多くの薬剤の治験受け入れ体制を構築しております。

昨年参加した治験件数は3件ほどですが、今後はできる限りの治験に参加する方針です。

新潟第二病院

〒950-1104 新潟県新潟市西区寺地280-7



床数	406床 (内訳：高度急性期130床、急性期234床、回復期42床)		
1日平均 外来患者数	950人	治験事務局 担当者	2人(SMO担当者含む)
SMO 委託状況	フルサポート (CRC派遣+事務局)	CRC	3人(SMO担当者含む)

当院では、現在、代謝内分泌内科の鈴木克典医師が、糖尿病や生活習慣病などの済生会共同治験に取り組んでいます。また、消化器内科の本間 照 副院長は潰瘍性大腸炎やクローン病、消化器内科の石川 達 部長は肝臓疾患および、その関連薬剤の治験に参加しています。その他、各診療科の医師は大学、関連施設との連携により臨床研究を行っています。

今後は総合病院の利を生かして、多くの診療科医師が治験に関わることができるよう体制整備を行い、医薬品の誕生に貢献できればと考えています。

〈茨城〉

水戸済生会総合病院

〒311-4198 茨城県水戸市双葉台3-3-10

床数	472床(内訳：高度急性期28床、急性期398床、回復期30床、慢性期16床)		
1日平均外来患者数	858人	治験事務局担当者	3人(SMO2社、各1人)
SMO委託状況	フルサポート(CRC派遣+事務局)	CRC	4人(SMO2社、各2人)

2011年4月に治験管理室が新設され、SMOスタッフと各部門の院内スタッフが協働し、治験の実施・管理と職員への治験の教育・啓発に努めています。

「済生会共同治験」や「いばらき治験ネットワーク」にも積極的に取り組み、昨年度は製薬協の「治験ネットワーク活性化プロジェクト」にも協力しました。季刊で「治験管理室だより」を発行するとともに、院外から講師を招き「治験セミナー」を開講しています。

また、倫理指針の改訂を受けて2016年9月からは院内治験審査委員向けの研修「IRB5分間セミナー」を開始しました。

〈群馬〉

前橋病院

〒371-0821 群馬県前橋市上新田町564-1

床数	327床(ドック10床含む)、(内訳：高度急性期63床、急性期：264床)		
1日平均外来患者数	460人	治験事務局担当者	3人(SMO担当者含む)
SMO委託状況	フルサポート(CRC派遣+事務局)	CRC	9人(SMO担当者7人、院内CRC2人)

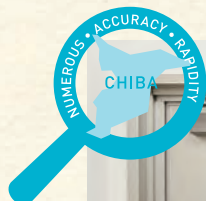
当院には、白血病、悪性腫瘍、腎臓、肝臓、循環器、内分泌、消化器疾患や外科、整形外科などの領域で専門性と質の高い治療を行える経験豊かな医師、医療スタッフや設備が充実しています。

また、治験審査委員会が定期開催され、治験と治験参加者を優しくサポートできるCRCがいる臨床研究支援室も整っています。これまでに多くの治験が依頼され、当院で実施した治験から待ち望まれていた新薬が数多く誕生しています。

〈千葉〉

習志野病院

〒275-8580 千葉県習志野市泉町1-1-1



床数 400床(内訳：高度急性期6床、急性期394床)

1日平均
外来患者数 約800人

治験事務局
担当者 2人

SMO
委託状況 無し

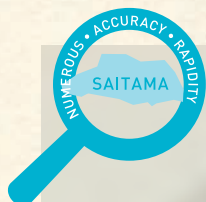
CRC 2人

当院では2002年にIRBが設置され、SMOのサポートを受けて治験受託を開始しました。2014年8月に自院専属職員を配置した倫理・治験管理室が設置され、リウマチ膠原病アレルギー科、整形外科、泌尿器科、循環器内科の領域を中心に治験および臨床試験が実施されています。現在4件の治験および5件の臨床試験が進行中です。これまで未実施の診療科にも支援を呼びかけており、今後は新規領域の治験も積極的に実施します。

〈埼玉〉

川口総合病院

〒332-8558 埼玉県川口市西川口5-11-5



床数 424床(内訳：急性期424床)

1日平均
外来患者数 1,160人

治験事務局
担当者 3人

SMO
委託状況 CRC派遣のみ

CRC 5人(SMO担当者含む)

当院で治験実績がある診療科は、循環器内科、整形外科、消化器内科、皮膚科、産婦人科、糖尿病・内分泌内科、泌尿器科、小児科、眼科、腎臓内科、呼吸器内科です。SMOにCRC派遣を依頼していますが、日本臨床薬理学会認定CRCを取得した院内CRCとも連携して院内調整を図っています。

当院は整形外科、循環器および脳神経外科の心血管系、糖尿病、がん全般に力を入れています。地域がん診療連携拠点病院でもあることから、今後は抗がん剤の治験も実施していく予定です。

〈神奈川〉

横浜市東部病院

〒230-8765 神奈川県横浜市鶴見区下末吉3-6-1

床数	560床〔うち、重症心身障害児(者)施設サルビア44床〕		
1日平均 外来患者数	1,053人(11月診療分)	治験事務局 担当者	2人
SMO 委託状況	CRC派遣のみ(一部)	CRC	4人 (院内2人、SMO2人)

当院は急性期医療を提供する病院で、2007年から70試験以上の治験実績があります。実施科は循環器内科が7割を占め、冠動脈・下肢動脈疾患の医療機器治験が多いことが当院の特徴です。他科では糖尿病・内分泌内科、救急科、小児科等の医薬品の実績があります。

実施に対しては「治験専用診察券」や治験患者識別可能な電子カルテシステムの導入、依頼者に対し窓口一元化やメール等で訪問回数削減をするなどの院内整備を実施しております。



福井県済生会病院

〒918-8503 福井県福井市和田中町舟橋7-1

床数	460床〔内訳：一般456床(うち開放型40床、HCU11床、SCU9床、緩和ケア病棟20床)、結核4床〕		
1日平均 外来患者数	1,300人	治験事務局 担当者	2人(SMO担当者含む)
SMO 委託状況	フルサポート (CRC派遣+事務局)	CRC	4人(SMO担当者含む)

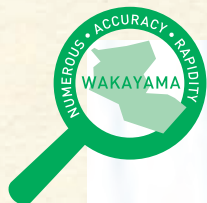
当院は福井県では唯一肝疾患診療連携拠点病院に指定されており、肝疾患の患者さんを対象にした治験を数多く実施しております。肝疾患以外の領域でも積極的に治験を実施しており、どの診療科の医師もモチベーションが高く大変協力的です。

平成24年11月には治験コーディネーター室が新設され、SMOスタッフとも協働し、円滑な治験実施体制の構築および質の高い治験の遂行に努めています。



和歌山病院

〒640-8158 和歌山県和歌山市十二番丁45



床数	200床 (内訳：急性期160床、回復期リハビリテーション病棟40床)	治験事務局 担当者	2人(SMO担当者含む)
1日平均 外来患者数	350人	SMO 委託状況	フルサポート (CRC派遣+事務局)
		CRC	4人(SMO担当者含む)

当院は病院全体で積極的に治験に取り組んでいて、ほぼ全診療科で治験実績があります。治験特有の手順に対して、各部署で協力体制が整っていることで、円滑かつ正しい手順で治験の実施が可能です。最近の治験では、今まで以上に求められることが多くなってきましたが、一つひとつ対応方法を検討しながら取り組んでいます。スピーディーなエントリー、正確な症例報告書作成だけではなく、患者さんの人権を第一に考えています。

病院も患者さんもメリットが得られるようにしたいと思います。

〈大阪〉 千里病院

〒565-0862 大阪府吹田市津雲台1-1-6



床数	343床(内訳：急性期343床)	治験事務局 担当者	2人(SMO担当者含む)
1日平均 外来患者数	520人	SMO 委託状況	フルサポート (CRC派遣+事務局)
		CRC	2人(SMO担当者含む)

当院では、2010年に治験・臨床試験管理室を立ち上げてから、現在までに20件の治験を受託しています。新規受託は年平均3試験、契約例数達成率は平均73%です。

SMOと連携し、内科系疾患を中心に、小児や救急疾患を含めた幅広い分野で治験に取り組んでいます。

現在、消化器内科で非アルコール性脂肪肝炎、潰瘍性大腸炎、クローン病の3試験、循環器内科で心不全、脂質異常症の2試験、糖尿病内科で糖尿病性腎症の2試験、外科でがん疼痛の1試験が進行中です。

〈大阪〉

中津病院

〒530-0012 大阪府大阪市北区芝田2-10-39



床数	712床(内訳：一般病床679床、療養病床33床)		
1日平均 外来患者数	1,133人(健診センター含まない) 1,227人(健診センター含む)	治験事務局 担当者	2人(SMO担当者含む)
SMO 委託状況	フルサポート (CRC派遣+事務局)	CRC	8人(SMO担当者含む)

当院は大阪（梅田）駅に近い立地で、治験参加者にとって利便性の高い都市型の地域中核病院です。2005年以降、製薬企業35社から100試験以上の治験受託実績があり、消化器内科で25試験、整形外科で13試験、小児科、神経内科で10試験、糖尿病内分泌内科、呼吸器内科で8試験、血液内科で6試験、循環器内科で5試験が行われ、その他16の診療科で治験を実施しています。2014年以降、医療機器治験も3件実施し、今後さらに医療の発展につながる治験受託を積極的に進めていきたいと考えています。

〈大阪〉

野江病院

〒536-0001 大阪府大阪市城東区古市1-3-25



床数	400床(内訳：急性期400床)		
1日平均 外来患者数	約920人 (2016年10月)	治験事務局 担当者	2人(SMO担当者含む)
SMO 委託状況	フルサポート (CRC派遣+事務局)	CRC	1人(SMO担当者含む)

済生会共同治験が構築されて以来、病院として積極的に共同治験に参加できるように取り組んでいます。済生会本部からの調査票についてはSMOと協力し、迅速・確実に回答するようにしています。その結果、これまでに糖尿病・内分泌内科および呼吸器内科、消化器外科において共同治験の実績があります。

特に糖尿病・内分泌内科、消化器外科で実施した治験については、実施率100%となっており共同治験に貢献できていると考えています。

岡山済生会総合病院

〒700-8511 岡山県岡山市北区国体町2-25
(岡山済生会総合病院附属外来センター：〒700-0013 岡山市北区伊福町1-17-18)



床数	岡山済生会総合病院：553床(内訳：一般病棟500床、小児病棟28床、緩和ケア病棟25床)、岡山済生会総合病院附属外来センター：0床		
1日平均 外来患者数	岡山済生会総合病院：128人、岡山済生会総合病院附属外来センター：816人	治験事務局 担当者	5人(SMO担当者含む)
SMO 委託状況	フルサポート (CRC派遣+事務局)	CRC	5人(SMO担当者含む)

当院は2016年から一般外来機能を附属外来センターに移しており、総合病院では入院治験を、附属外来センターでは外来治験を主に実施しています。両施設で年間計15試験ほどの治験(Ⅳ相試験を含む)を行っており、肝臓内科、腎臓内科、リウマチ内科、糖尿病内科、小児科での試験が活発です。小児内分泌領域、腎臓腹膜透析領域では第Ⅰ相試験の実施経験もあります。

また、当院では消化器がん患者の受診が多いため、今後はこの領域を含めて広く治験案件を募集し、積極的に受託していきたいと考えています。

広島病院

〒731-4311 広島県安芸郡坂町北新地2-3-10



床数	330床(内訳：急性期280床、地域包括病床50床)		
1日平均 外来患者数	570人	治験事務局 担当者	1人
SMO 委託状況	CRC派遣のみ	CRC	2人(SMO担当者含む)

当院審査委員会は、病院長が設置し、医師、看護師、薬剤師、医学・薬学の専門でない者、当院と利害関係のない外部の者によって構成されています。特に消化器、循環器の治験には経験と実績があり柔軟に対応しています。また、CRCによる患者面談やモニタリングはISMSに沿って行い、派遣CRCへの配慮も含めた環境を整えています。

今後は、治験を円滑に進めるために広報活動や啓発活動を行い、スムーズな治験の実施をめざしていきたいと考えています。

〈愛媛〉

今治病院

〒799-1592 愛媛県今治市喜田村7-1-6



床数	191床(内訳：急性期183床、高度急性期8床)		
1日平均 外来患者数	713人(2015年度)	治験事務局 担当者	1人(SMO担当者含む)
SMO 委託状況	フルサポート (CRC派遣+事務局)	CRC	2人(SMO担当者含む)

当院は平成25年に新病棟および緩和ケア病棟の改築が終わり、がん診療において診断から治療、そして緩和ケアまで今治地区の地域がん診療連携拠点病院としての機能がそろいました。今治医療圏の中核病院として最高水準の医療を地域の方々に提供していくことが当院の使命です。

治験においては、内科、循環器内科、透析科を中心に、現在まで23件の治験を実施しています。

可能な限り治験実施可能性調査への回答を行い、治験実施に向け積極的に取り組んでいます。

〈福岡〉

二日市病院

〒818-8516 福岡県筑紫野市湯町3-13-1



床数	一般病床260床(内訳：一般病床254床、ICU 6床)		
1日平均 外来患者数	370人	治験事務局 担当者	2人(SMO担当者含む)
SMO 委託状況	フルサポート (CRC派遣+事務局)	CRC	4人(SMO担当者含む)

2005年にIRBを設置し、治験を開始しました。また、2007年には治験の管理および推進を目的に治験管理室を設け、従来の治験事務局と治験審査委員会事務局を薬剤部から移行させました。その後、2011年には、IRBを北部九州済生会共同治験審査委員会に移し、治験業務の効率化を図っています。

現在、治験管理室は治験を含めた臨床研究を担当する臨床研究・教育センターの中に位置づけられています。SMOのフルサポートを受け、循環器内科・呼吸器内科を中心に治験を行っています。

長崎病院

〒850-0003 長崎県長崎市片淵2-5-1



床数	205床		
1日平均 外来患者数	235人	治験事務局 担当者	2人(SMO担当者含む)
SMO 委託状況	フルサポート (CRC派遣+事務局)	CRC	4人(SMO担当者含む)

これまで、当院の治験実施診療科は、産婦人科、脳神経外科、睡眠医療センターに限られていました。これからは、今までに実績がなかった内科系、およびその他の診療科にも積極的にアプローチし、情報を開示して、治験件数を増やしていきたいと思っています。

また、当院産婦人科は、子宮筋腫、子宮内膜症等の診療実績が県内トップを誇っています。今後はこの実績を最大限に生かし、積極的に治験を受託したいと考えています。

今後、治験を数多く実施することで、医療の質を向上し、地域医療または済生会グループに貢献していきたいと思っています。

熊本病院

〒861-4193 熊本県熊本市南区近見5-3-1



床数	400床(内訳：高度急性期：400床)		
1日平均 外来患者数	498人 (2015年度実績)	治験事務局 担当者	2人
SMO 委託状況	CRC派遣のみ	CRC	4人(SMO担当者含む)

当院は、第Ⅱ～Ⅳ相臨床試験を取り扱い、急性期型の治験が多く、全体の約70%が入院患者対象の治験です。また注射剤が約半数を占め、薬剤部で調製を行っています。

主な診療科は循環器内科、呼吸器内科（がん分野も含む）、神経内科、糖尿病科、救急総合診療科、脳神経外科などです。その他、医療機器治験や医師主導治験も実施しています。また、治験のプロトコル逸脱率を医療の質の管理指標として評価し、治験の質向上に努めています。

済生会は日本最大の社会福祉法人

地域の医療・保健・福祉を担う

恩賜財団済生会おんしだいだんさいせいかいは明治天皇の「済生勅語」さいせいてんごに基づ

き明治44年設立されました。社会に増大した困窮者いんきゆうに無償で医療を行い、それによって生を済すくおうというのです。各地に診療所を設け、貧困所帯に無料の特別診療券を配布して受診をうながしたほか、巡回診療班を編成して困窮者の多い地区を回り、診療・保健指導を行いました。

第二次大戦後、済生会は財団法人から社会福祉法人に改組して再スタートを切りました。天皇のお志を忘れないため恩賜財団の名を残し、「社会福祉法人恩賜済生会」を正式名称としています。

現在、第6代総裁に秋篠宮文仁親王殿下を推戴し、会長は有馬朗人、理事長は炭谷茂が務めています。公的医療機関として指定され、全国40都道府県で99の病院・診療所をはじめ福祉施設等を含め379施設を運営。約5万9000人の職員が働く日本最大の社会福祉法人となっています。平成27年度は、延べ2538万人が本会を利用されました。

地域の方々の目線に立って、皆さまに最適な医療・保健・福祉を総合的に提供することが、われわれの最大の使命だと考えています。



秋篠宮文仁親王殿下



明治天皇

年表

明治	▶ 44年2月11日	明治天皇「済生勅語」を発し、お手元金150万円(現在の16億円に相当)ご下賜
	▶ 44年5月30日	済生会の設立許可(創立記念日)
	▶ 44年8月21日	初代総裁に伏見宮貞愛親王殿下
	▶ 44年9月9日	医務主管に北里柴三郎
大正	▶ 1年10月24日	紋章として「なでしこ」を制定
	▶ 2年9月1日	済生会第1号の神奈川県病院開設
	▶ 12年4月2日	第2代総裁に閑院宮載仁親王殿下
	▶ 12年9月1日	関東大震災。臨時に巡回看護班を編成
昭和	▶ 20年8月21日	第3代総裁に高松宮宣仁親王殿下
	▶ 26年8月22日	医療法による公的医療機関に指定
	▶ 27年5月22日	社会福祉法人として認可
	▶ 37年10月7日	瀬戸内海巡回診療船「済生丸」進水
	▶ 62年4月21日	第4代総裁に高松宮宣仁親王妃喜久子殿下
平成	▶ 12年4月3日	第5代総裁に三笠宮家の寛仁親王殿下
	▶ 22年12月10日	本会の10年間の事業目標であるマスタープラン「第四次基本問題委員会報告」
	▶ 23年5月30日	創立100周年記念式典 天皇后両陛下ご臨席
	▶ 25年4月1日	第6代総裁に秋篠宮文仁親王殿下
	▶ 29年4月1日	第13代会長に有馬朗人

済生会は、患者さんの所得額によって医療費が無料になったり減額されたりする「無料又は低額診療事業」を実施しています。各病院の担当窓口にご相談ください。

シリーズ 済生会の力 第9集

創薬の架け橋へ
済生会共同治験ネットワーク

平成29年3月1日 第1版第1刷発行
平成29年4月4日 第1版第2刷発行

発行 社会福祉法人恩賜済生会
理事長 炭谷 茂

編集 広報室

表紙写真 ©imagewerksRF / amanaimages

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビルディング21階
TEL: 03-3454-3311(代) URL: <http://www.saiseikai.or.jp>